

令和2年度

竹原駅前エリアまちづくり通信 創刊号

竹原駅前エリアが市民や来訪者にとって居心地が良く、歩きたくなる空間を創出するための取組について、地域の皆様に情報発信していきます。

👉 竹原駅前賑わい空間再生事業

【目的】

市域全体の活力を牽引すべきまちの中心部において、低未利用地（空き家・空き店舗・空き地）が増加し、**都市のスポンジ化**が進展しています。

そのため、本事業では竹原駅前エリアとして将来あるべき姿を見渡し、地域課題解決につながるための**低未利用地活用や公共空間の利活用**に公民連携で取組み、竹原駅前エリアが市民にとって**居心地が良く、歩きたくなる空間**を創出することを目的としています。

【事業概要】

①竹原駅前ウォークアブルビジョン策定

駅前エリアの将来像、まちづくりの戦略、必要な施設、取組内容を地域住民・商店街・関係団体・行政などの幅広いメンバーで検討します。

②空き店舗等クラウドファンディング事業

ビジョンに位置付けられたウォークアブルに必要な施設を対象としてプレーヤーを募集し、応募された事業計画に対して市がクラウドファンディングで資金調達します。

③公共空間を活用した社会実験

竹原駅前エリアの道路などの公共空間を活用して、市民や来訪者にとって居心地の良い空間を創出するための実験的な取組を行います。

ソン ジュンファン

宋 俊 煥（アドバイザー）

山口大学大学院創成科学研究科 准教授
博士（環境学）/アーバンデザイン/エリアマネジメント/東京大学大学院博士課程修了。東京大学特別研究員

株式会社にぎわい宇部取締役（非常勤）や宇部市中心市街地活性化協議会委員等を務める。エリアマネジメントの取組の重要性を問い、まちに根付いた活動を展開。代表的なものに「若者クリエイティブコンテナ（宇部）」があり、研究の傍ら実践的なまちづくりに従事している。



👉 まちづくり勉強会の開催

テーマ

「小さなアクションから始まるまちづくり」

6月22日（月）竹原駅前エリアまちづくりの最初のステップとして、**山口大学大学院の宋アドバイザー**をお招きし、「小さなアクションから始まるまちづくり」をテーマに景観づくりメンバー13名と行政職員を対象に勉強会を開催しました。

勉強会では、宇部市における実践的な活動事例として「**若者クリエイティブコンテナ（宇部）**」などについてご紹介して頂きました。

公・民・学が連携してまちづくりを進めていくための「場」と「環境」づくり、公有地を活用した地域との連携イベントなど具体的な取組について勉強しました。

竹原駅前エリアのビジョン策定や社会実験などに活用していきたいと考えています。



勉強会の様子

令和2年度

竹原市・景観づくり通信 Vol. 3



竹原市景観計画

『景観形成に関する将来像と方針』

- 1) 竹原市が目指す景観づくり
- 2) 重点地区の景観づくり（候補地選定）

問い合わせ

竹原市役所 建設部 都市整備課
TEL:0846-22-7749 FAX:0846-22-8579
E-Mail: toshi@city.takehara.lg.jp

令和2年3月に第2回景観計画策定委員会を行い、「竹原市が目指す景観づくりの将来像や基本方針」、「ゾーン別の景観づくり」、「重点地区の景観づくり（候補地選定）」等について審議しました。
※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、委員会は書面審議で実施。

景観形成の将来像

市の景観特性や上位計画（竹原市総合計画、都市計画マスタープラン等）、市民意向などを踏まえ、「景観形成の将来像」を定めます。

竹原らしさが四季を彩り 交流と魅力あふれるまち

- 市内に点在する自然資源や歴史資源、まちでの伝統行事などは四季に応じて多彩な景観を創出しています。
- この竹原らしい景観を一人ひとりが守り・活かすことで、これからも四季を通じて美しく、魅力ある竹原を守りつづけるとともに、資源を生かした交流を促進させ、地域に賑わいを生むことを目指します。

“竹原らしさ”とは

瀬戸内の海・山・田園と歴史あるまちなみがまとまった竹原特有の風景、伝統行事等の賑わいが住民の生活と融合している様子、これらの風景や賑わいが誰でも身近に感じられること

景観形成の基本方針

景観形成の将来像を実現するため、「まもる（保全・維持）」、「みがく（創出・向上）」、「ととのえる（改善・調和）」、「つなぐ（協働）」の4つの基本方針に基づき、より具体的な景観形成の基本方針を定めます。

◇誇りある景観を「まもる」

竹原が誇る自然景観や歴史・文化的景観などの竹原固有の景観を守り、将来に継承していく景観づくり



◇魅力ある景観を「みがく」

竹原の魅力を新たに創出する景観づくりや今ある資源を活用し、磨き上げ、発信することで竹原の魅力と価値を高める景観づくり



◇愛着ある景観を「ととのえる」

竹原の良好な景観を阻害する要因を改善し、周辺景観と調和する景観づくり



◇一人ひとりの力を「つなぐ」

美しい景観を将来につなげるため、市民・事業者・行政が役割を分担し、一人ひとりが力を合わせて、景観づくりの輪を広げる



景観づくりを進める区域

竹原市全体での良好な景観形成を進めるため、**市全域を景観計画区域**とします。

また、地域の持つ資源や土地利用などの景観特性に応じた景観形成を進めるため、景観計画区域（市全域）を**5つのゾーン**と**2つの景観軸**に区分します。



ゾーン・軸		概要	主な地区など	景観づくりの目標
景観ゾーン	まちなかゾーン	竹原駅前商店街や竹原市役所周辺の商業施設や公共施設が集積する市街地エリア	竹原駅 竹原駅前商店街 新開地区	竹原市の中心地として、竹原らしい魅力と活力のある景観形成を目指す。特に竹原駅前商店街は、町並み保存地区へつながるルートとなっており、市民や来訪者が心地よさと魅力を感じる景観形成を目指す。
	住宅地ゾーン	まちなかゾーン周辺や吉名駅、大乘駅、忠海駅周辺の住宅地エリア	吉名駅周辺、大乘駅周辺、忠海駅周辺、下野町	生活の場として、市民が落ち着きを感じる景観形成を目指す。
	歴史まちなみ地域	歴史ある建物と住宅が共存し、趣のある景観を形成するエリア	町並み保存地区 忠海市街地	“竹原らしさ”を継承し、生活と伝統が融合した歴史的景観の維持・向上を目指す。
	田園集落ゾーン	竹原市北部や宿根地区等の主に農業が営まれているエリア	東野町、新庄町、西野町、田万里町、仁賀町、小梨町、宿根地区	集落と農地が周辺の自然と調和した安らぎのある景観形成を目指す。
	多島美ゾーン	豊かな自然景観を有する島々による多島美を形成するエリア	瀬戸内海沿岸 大久野島・小久野島・阿波島	瀬戸内海の豊かな自然景観を有する島々による多島美を生かした景観形成を目指す。
	近代産業地域	レンガ工場や火力発電所等が立地する沿岸部の工場エリア	吉名レンガ工場周辺 竹原製煉所周辺 竹原火力発電所周辺	臨海部に立地するレンガ工場や火力発電所などの近代的な産業の景観形成を目指す。
景観軸	山なみゾーン	市街地を取り囲むように山々が広がっている緑あふれるエリア	朝日山・黒滝山等のランドマーク、市街地を囲む山々	山々の緑豊かな自然景観の保全を目指す。
	沿道景観軸	国道432号、185号の主要道沿道のエリア	国道432号、国道185号	市外からの来訪者も多く利用する主要幹線道路沿いで、“竹原らしい”玄関口となる景観形成を目指す。
	河川景観軸	賀茂川の周辺	賀茂川	竹原の水と緑のシンボル軸として、周辺の景色と調和した景観形成を目指す。

重点地区の景観づくり

特に竹原らしい景観を有しており、将来にわたって景観を保全すべき地区を重点地区に指定し、**地区の実情に合ったより細かな景観形成の基準**（建築物や工作物等の色・高さの規制など）を定めます。

重点地区指定の基準

- ・市の上位計画（総合計画や都市計画マスタープラン等）で方針が示された地区
- ・現在の法規制が弱い地区
- ・景観づくりや地域づくりの活動がある地区
- ・市民意向が強い地区または現況整理を踏まえ市の顔となる地区

総合的に判断

重点地区の候補地

「町並み保存地区周辺」、「竹原シンボルロード周辺」、「竹原駅前周辺」、「忠海市街地周辺」



町並み保存地区周辺



竹原シンボルロード周辺



竹原駅前周辺



忠海市街地周辺

重点地区以外の景観づくり

重点地区以外の地域については、景観形成の将来像及び基本方針を踏まえ、**ゾーンや地域の特徴を活かした景観形成の方針**を示します。

- （例）山なみゾーン：朝日山や黒滝山等からの良好な眺望を阻害するおそれのある行為等については、適切な誘導を図り、良好な眺望景観を保全します。
- 多島美ゾーン：的場公園や沿岸部の高台、ＪＲ呉線等から望む瀬戸内海の多島美景観を保全します。

委員からの主なご意見

- “遠景としての竹原” や “たけはらしさ” を意識した景観づくりを進めて欲しい。
- 竹原駅から町並み保存地区につながる本川通りを趣のある通りに整えて、町並み保存地区との繋がりをもたせてはどうか。
- 国道 432 号沿道は都市的な印象、駅周辺や町並み保存地区は小京都のような印象をもたせるまちづくりにより、メリハリをつけてはどうか。
- 景観づくりはルールづくりに加えて、住民の景観イメージを育むことも重要である。

委員会で頂いたご意見等を踏まえ、引き続き景観計画の策定を進めます。

今後の予定

第3回景観づくり勉強会を6月27日（土）に『景観づくりのアイデアを掘り下げよう』をテーマに開催しました。次回はその内容について8月広報でお知らせします。